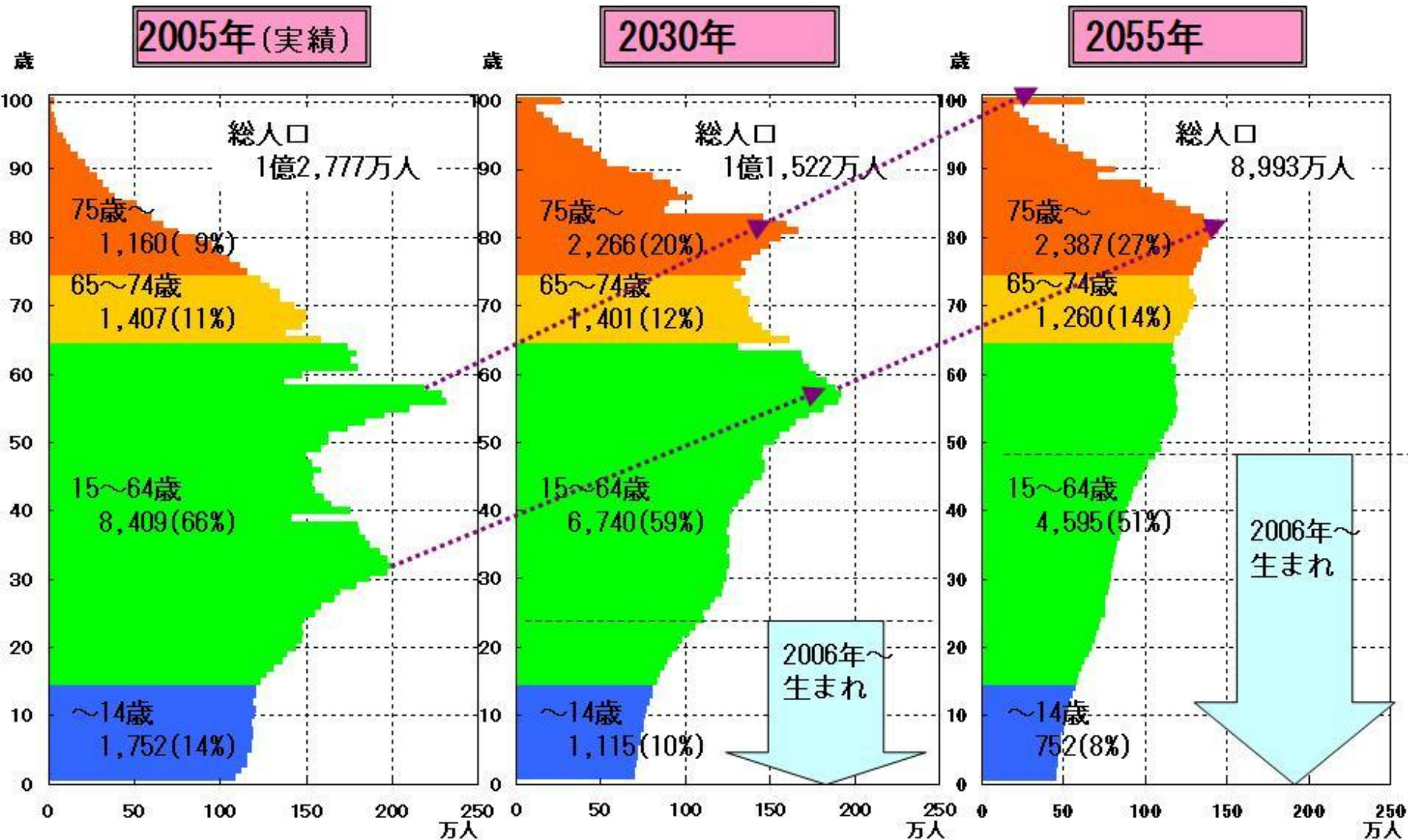


“Productive Aging” In the Super Aged-Society

国立長寿医療研究センター研究所
鈴木 隆 雄

人口ピラミッドの変化(2005, 2030, 2055) -平成18年中位推計-



注:2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。

日本の超高齢社会

-2030年何が起こるのか？-

1) 後期高齢者の急増

11.5% → 20.0%

2) 単身および夫婦のみ高齢者世帯の急増

23.0% → 38.0%

3) 都市部での高齢人口の急増

全国平均 35%増

東京都 40%増

首都圏(平均) 70%増

4) 死亡者数の急増

110万人/年 → 170万人/年

5) 要介護高齢者の急増

16% → 23%

6) 認知症高齢者の急増

300万人 → 500万人

前期高齢者 VS 後期高齢者

前期高齢者(65～74歳)

- ・健康度が高く活動的
- ・社会的貢献度(プロダクティビティ)も高い
- ・就労意欲が高く欧米に比し就労率が高い

後期高齢者(75歳以上)

- ・心身の機能の減衰が顕在化
- ・老年症候群、虚弱、認知症が増加
- ・医療機関受診の割合が高い(85.8%)
- ・要介護認定者の割合が高い(86.4%)

要介護認定者数(厚労省2010)

	認定者数 (千人)	高齢者全体に 占める割合(%)	要介護認定者に 占める割合(%)
前期高齢者	654	2.3	13.6
後期高齢者	4.152	14.3	86.4

今後急増する後期高齢者の健康対策

- 1) 認知症(認知機能低下)の予防対策
- 2) サルコペニア(加齢性筋肉量減少症)の予防対策(ロコモを含む)
- 3) プロダクティビティと生きがい
- 4) システムとしての地域包括ケアの実現

➤ 介護予防へ向けた二次予防対策

高齢者機能健診



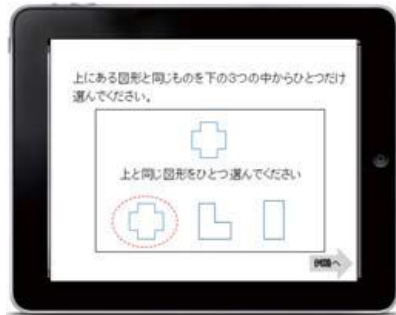
生活機能アンケート



運動機能



生体マーカー



認知機能検査

介護予防事業 運動教室・学習教室

